

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター そうさんの足音			
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年9月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	92	(回答者数)	58
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日 ～ 令和7年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数・短時間での密度の高い療育の実施 子ども一人ひとりにしっかりと関わることができ、個別ニーズに応じた対応がしやすい。 療育の質を高め、行動観察やフィードバックも丁寧に実施できる。	①個別目標に基づく日々のプログラム調整。 子どもの状態や達成度を毎回観察し、その日の最適な課題量・関わり方を即時に調整している。 ②毎日のミーティングを徹底し、少人数だからこそ全スタッフが子どもの変化をすぐ把握できる体制づくりを意識している。	周知とご説明に十分な時間が取れるように努めます。
2	ABAプログラムに基づくスモールステップ支援 明確な目標設定と、段階的な成功体験を積み上げる指導が可能。 発達段階に合わせた無理のないステップで、行動改善やスキル習得を促進。 職員間での指導方法の統一やデータに基づく評価など、専門性の高い療育の強化が期待できる。	①目標に対する行動を記録し、達成度をみて、次のステップへ進むタイミングを慎重に判断。 ②成功体験を積みせる強化(ほめ方)の工夫 子どもが「できた」と感じられるよう、適切な強化子(ほめ言葉・ご褒美・好きな活動)を個々に合わせて設定。	周知とご説明に十分な時間が取れるように努めます。
3	③病院併設による医療的支援と専門家相談が可能 医師へ相談できる環境があり、健康面・発達面の連携が取りやすい。 医療的知見を踏まえた支援計画が作成できる。 他職種(医師・心理士・療育スタッフ)の協働により、総合的な支援の質向上が期待される。	①病院併設による医療との連携 必要時に迅速に相談できる連絡体制の構築 ちょっとした心配事でもスタッフから医師にすぐ相談できるよう、情報共有ルートを明確化。 ②医療的助言を療育計画に反映 医師からのアドバイスを受け、支援内容や関わり方を随時見直し、療育と医療が一貫した方向で進むように調整。	周知とご説明に十分な時間が取れるように努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	① 地域および保護者との交流・連携が不十分 地域とのつながりや情報交換の機会がなく、事業所の取り組みが十分に周知されていない。 ②保護者とのコミュニケーションや交流機会がなく、家庭との連携が強化しきれていない面がある。	①少人数・短時間で密な療育を提供しているため、スタッフの多くが療育準備・個別対応に追われる構造がある。 その結果、外部との交流企画や広報活動に割ける時間や人員が不足しやすい。 ②地域連携や保護者同士の交流会などのニーズ聞き取りが出来ていない。	①地域の学校・福祉機関・自治会と連携し、合同イベントや見学会などの交流機会をもつ(必要に応じて)。 地域向けに事業所だよりや活動紹介のチラシを作成し、事業所の取り組みを積極的に発信する。 ②保護者面談の定期開催、相談窓口の設置など、保護者がいつでも気軽に相談できる体制を整える。
2	①療育内容が外部・保護者から分かりにくい 日々の療育のねらいや進捗が保護者に十分に伝わりにくく、具体的な活動内容の理解が得られにくい。 ②プログラムの効果や取り組みの意図を可視化する仕組みが弱く、提供する支援の見える化が課題となっている。	①ABAの考え方やスモールステップの意図が、一般の保護者には分かりにくい場合がある。行動データやプロセスが中心となり、成果が即時に「見える形」で伝わりにくい。 活動記録や支援内容を共有するためのツール(写真、コメント、記録のフォーマット)が不十分である。 日々の療育の中で、保護者への説明を十分に行うための時間が確保しにくい。	①ABAの考え方やスモールステップの意図を解説したガイド資料を保護者向けに作成。 ②利用開始時のオリエンテーションや年度初めの説明会で、療育方針を丁寧に共有する。